



J R 連 合 NEWS

J R 産 業 に 集 う
す べ て の 仲 間 の
J R 連 合 へ の
総 結 集 を !!

2024 年 度

No. 1 2

2024 年 7 月 26 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

貨物鉄産労第40回定期全国大会

記念すべき第40回大会で組織拡大への決意を新たに!

貨物鉄産労は7月8日、大阪市内において第40回定期全国大会を開催し、2024年度の運動方針を満場一致で決定し、辻村和裕中央執行委員長（JR連合副会長）らJR採用世代による執行部の2年目の運動をスタートさせた。JR連合からは、荻山市朗会長、相良夏樹組織・政治局長が出席した。

辻村中央執行委員長は、主催者挨拶で主要課題である「安全の確立」「JR貨物の経営状況と2024年問題をはじめ政策課題への対応」「組織拡大と民主化闘争完遂」について提起した。特に組織課題については、本大会が第40回大会であることにも触れ、「我々は、第50回大会を開催できるかの岐路に立つ。貨物鉄産労を守っていくためには組織拡大しかない」と組織拡大・強化に向けた決意を述べた。



続いて挨拶に立った荻山会長は、貨物鉄産労の現状に触れつつ、「今こそ組織拡大・労政転換のチャンスだ。不退職の決意で組織拡大に取り組もう」と呼び掛けた。また、政策課題としての2024年問題に触れ、「昨秋、政府が物流革新緊急パッケージをまとめ、10年で貨物鉄道コンテナ輸送量の倍増を目標に掲げた。高い目標ではあるが、これ位の目標を達成しない限り、JR貨物は社会的役割を果たせない。現実的な提言を積み重ねる中で目標を達成しよう」と奮起を促した。

各地区本部からも組織拡大への決意が述べられる

議事では、橋爪博史書記長から経過等の報告と2024年度運動方針等の提起がなされ、それらに対する質疑応答が行われた。質疑には、議長に就任した代議員を除く全代議員が立ち、特に組織拡大に向けては各地区本部から強い決意が述べられ、併せてJR連合や各単組との連携に関する要望も出された。また、貨物鉄産労の存在をアピールするための発信力強化に関する意見も複数出された。さらに、JR貨物の将来性に悲観し、退職する若手社員が多いという現実にも複数の代議員が言及し、基本給や各種手当、期末手当の引上げを強く要望した。



その後、これらに対する執行部答弁、橋爪書記長による集約答弁があり、全ての議案が満場一致で可決された。大会宣言においても、「これまで以上にJR連合・本部・各地区本部が連携を密に取り合い、総力を結集して運動を推進していく」と組織拡大に向けた決意が表明された。最後は辻村中央執行委員長が団結がんばろうで大会を締め括り、2024年度の運動を始動させた。